



2022年3月期第3四半期 決算説明資料

2022.02.04

TIS株式会社

© 2022 TIS Inc.

(2022年2月4日開催 アナリスト向け決算説明電話会議 プレゼンテーション要旨)

- ・TISの河村です。よろしくお願いいたします。
- ・それでは、本日15:00に発表しました、当社の第3四半期決算の内容について、決算説明資料を使ってご説明させていただきます。

2022年3月期第3四半期（累計） 業績概要

- ・上期に続き大幅増収増益、営業利益率も10.8%と高水準
- ・受注高・受注残高についても前年同期比増加を継続

2022年3月期 業績見通し

- ・上期決算で引き上げた通期計画に沿って順調に進捗中

- ・はじめに、2ページをご覧ください。
 - ・今回の第3四半期決算のハイライトは、
 - ・上期に続き、大幅増収増益で営業利益率も10.8%と高水準を達成できたこと
 - ・受注高・受注残高についても前年同期を上回る水準を継続していること
- および
- ・通期業績見通しについては上期決算で引き上げた計画に沿って順調に進捗していることです。

以上のことから、全体としては、上期に引き続き好調な決算となりました。

2022年3月期第3四半期（累計）業績概要

2022年3月期 業績見通し

参考資料

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・各四半期会計期間（3か月）の数値は累計期間の差引により算出しています。
- ・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。
- ・2022年3月期第1四半期より、「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

（説明省略）

2022年3月期第3四半期（累計）業績概要

2022年3月期 業績見通し

参考資料

（説明省略）

2022年3月期第3四半期（累計） 業績ハイライト（前年同期比）



- ・顧客のデジタル変革需要をはじめとするIT投資ニーズへの継続的な対応に加え、M&A効果も寄与し、増収増益。
- ・四半期純利益の増加は、第3四半期における子会社株式売却益の計上も一因。

（百万円）	2021年3月期 第3四半期 （累計）	2022年3月期 第3四半期 （累計）	前年同期比
売上高	318,033	353,133	+35,099 （+11.0%）
営業利益	30,088	38,258	+8,169 （+27.2%）
営業利益率	9.5%	10.8%	+1.3P —
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18,121	29,414	+11,292 （+62.3%）
四半期純利益率	5.7%	8.3%	+2.6P —

・営業外収益：1,920百万円（前年同期比 +363百万円）
→受取配当金 801百万円 等

・営業外費用：1,348百万円（前年同期比 ▲2,765百万円）
→持分法による投資損失 910百万円 等

・特別利益：6,862百万円（前年同期比 +2,799百万円）
→子会社株式売却益 6,362百万円 等

・特別損失：1,287百万円（前年同期比 ▲962百万円）
→減損損失 758百万円 等

- ・それでは、5ページをご覧ください。
- ・2022年3月期第3四半期累計の業績概要です。
- ・冒頭で申し上げたように、上期に引き続き、第3四半期も良好な事業環境が継続し、好調な決算となりました。
- ・売上高は顧客のデジタル変革需要をはじめとするIT投資ニーズへの継続的な対応に加えて、前年度に子会社化した企業の業績反映により、売上高は前年同期比350億円増の3,531億円となりました。
- ・営業利益は前年同期比81億円増の382億円となり、営業利益率は9.5%から10.8%に向上しました。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比112億円増の294億円となり、前年同期を大きく上回りましたが、これは事業活動による営業利益の増加に加えて、10月に公表済みの子会社株式売却益およそ60億円を第3四半期に特別利益として計上したためです。

2022年3月期第3四半期（累計）
主要セグメント別損益状況（前年同期比）



	(百万円)	2021年3月期 第3四半期 (累計)	2022年3月期 第3四半期 (累計)	前年同期比
サービスIT	売上高	93,695	112,093	+18,398 (+19.6%)
	営業利益	5,123	7,617	+2,493 (+48.7%)
	営業利益率	5.5%	6.8%	+1.3P -
BPO	売上高	26,025	27,238	+1,212 (+4.7%)
	営業利益	2,142	2,487	+344 (+16.1%)
	営業利益率	8.2%	9.1%	+0.9P -
金融IT	売上高	80,597	92,288	+11,691 (+14.5%)
	営業利益	10,680	12,130	+1,449 (+13.6%)
	営業利益率	13.3%	13.1%	▲0.2P -
産業IT	売上高	137,905	139,534	+1,629 (+1.2%)
	営業利益	12,430	15,761	+3,330 (+26.8%)
	営業利益率	9.0%	11.3%	+2.3P -

サービスIT：デジタル化の進展に伴うIT投資需要の取り込み(決済・マーケティング領域)に加え、M&A効果も寄与し、増収増益。
 BPO：保険業界をはじめとする企業のアウトソーシングニーズが引き続き堅調に推移し、増収増益。
 金融IT：クレジットカード系の根幹先顧客におけるIT投資拡大の動き等を受け、増収増益。
 産業IT：M&A効果に加え、根幹先顧客が堅調。子会社売却や収益認識基準適用に伴う減収影響を吸収し、増収増益。

© 2022 TIS Inc.

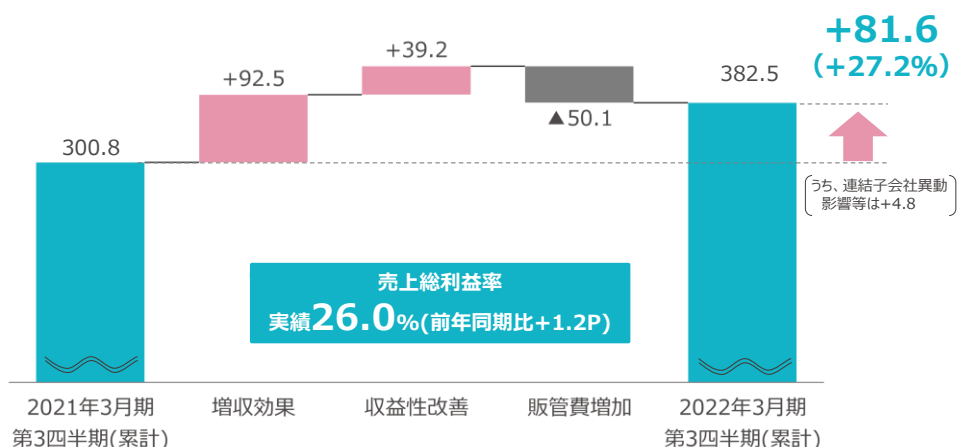
6

- ・続いて、6ページは主要なセグメント別の状況です。上期の傾向と大きく変わらず4つのセグメントのすべてにおいて前年同期比増収増益となりました。営業利益率も「金融IT」を除いて向上しています。
- ・まず、「サービスIT」ですが、ペイメントやマーケティング関連等のIT投資需要の取り込みに加え、前年度に子会社化したMFECの業績が反映されたことにより、売上高は前年同期比19.6%増の1,120億円、営業利益は前年同期比48.7%増の76億円となりました。
- ・「BPO」は、保険業界をはじめとした企業のアウトソーシング需要が引き続き堅調に推移し、売上高は前年同期比4.7%増の272億円、営業利益は16.1%増の24億円となりました。
- ・「金融IT」は、カード系の根幹先顧客におけるIT投資拡大の動きを受けて、売上高は前年同期比14.5%増の922億円、営業利益は前年同期比13.6%増の121億円となりました。なお、営業利益率は、前年同期を若干下回りましたが、不採算案件の発生やグループ会社のオフィス移転に伴う一時的な販管費増の影響によるものです。
- ・「産業IT」は、前年度に子会社化した濤標アナリティクスやTIS千代田システムズの業績反映に加えて、根幹先顧客の堅調なIT投資により、売上高は前年同期比1.2%増の1,395億円、営業利益は前年同期比26.8%増の157億円となりました。
- ・なお、「産業IT」においては、約50億円の減収影響があり、内訳としては中央システムの連結除外による影響が約20億円、収益認識基準の適用に伴う影響が約30億円でした。

2022年3月期第3四半期（累計） 営業利益要因別増減分析（前年同期比）



（億円）



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+17.4

（売上原価：+6.6 販管費+10.7）

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
 - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
 - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- に関するコスト

働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前年同期比+27.1

（売上原価：+7.9 販管費+19.1）

<販管費増減>

連結子会社異動影響等	+19.1
オフィス改革	+19.1
ブランド関連	▲1.5
経費削減・本社機能高度化	▲2.5
先行投資・その他	+15.9
計	+50.1

© 2022 TIS Inc.

7

- ・7ページは営業利益の要因別増減です。
- ・はじめに、不採算案件は累計で前年同期比約2億円増の12億円となり、通期目標の10億円以内を超過する結果となりました。これについては、まずはこの第4四半期はしっかりと抑制するよう注力してまいります。
- ・不採算案件の影響はありましたが、引き続き増収効果及び収益性改善による売上総利益の増加が、成長投資等に伴う販管費の増加を吸収して、前年同期比81.6億円の営業増益となりました。
- ・売上総利益率は、高付加価値ビジネスの提供、生産性向上施策の推進等により、前年同期比1.2ポイント上昇の26.0%となり、これが営業利益率の1.3ポイント上昇につながっています。
- ・販管費は、連結子会社の異動影響や働き方改革推進のためのオフィス改革投資により前年同期比50.1億円増加となりましたが、販管費率の水準は前年同期と変わりありません。

(参考) 2022年3月期第3四半期 (10-12月)
業績ハイライト・主要セグメント別損益



(百万円)		2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	前年同期比	
売上高		106,724	118,800	+12,075	(+11.3%)
営業利益		11,876	14,391	+2,514	(+21.2%)
営業利益率		11.1%	12.1%	+1.0P	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益		7,844	13,892	+6,048	(+77.1%)
四半期純利益率		7.4%	11.7%	+4.3P	—
主要セグメント別					
サービスIT	売上高	30,825	37,542	+6,716	(+21.8%)
	営業利益	2,550	2,809	+258	(+10.1%)
	営業利益率	8.3%	7.5%	▲0.8P	—
BPO	売上高	8,959	9,212	+252	(+2.8%)
	営業利益	833	951	+118	(+14.3%)
	営業利益率	9.3%	10.3%	+1.0P	—
金融IT	売上高	27,006	31,760	+4,753	(+17.6%)
	営業利益	4,005	4,307	+302	(+7.6%)
	営業利益率	14.8%	13.6%	▲1.2P	—
産業IT	売上高	46,432	45,857	▲575	(▲1.2%)
	営業利益	4,630	6,356	+1,725	(+37.3%)
	営業利益率	10.0%	13.9%	+3.9P	—

© 2022 TIS Inc.

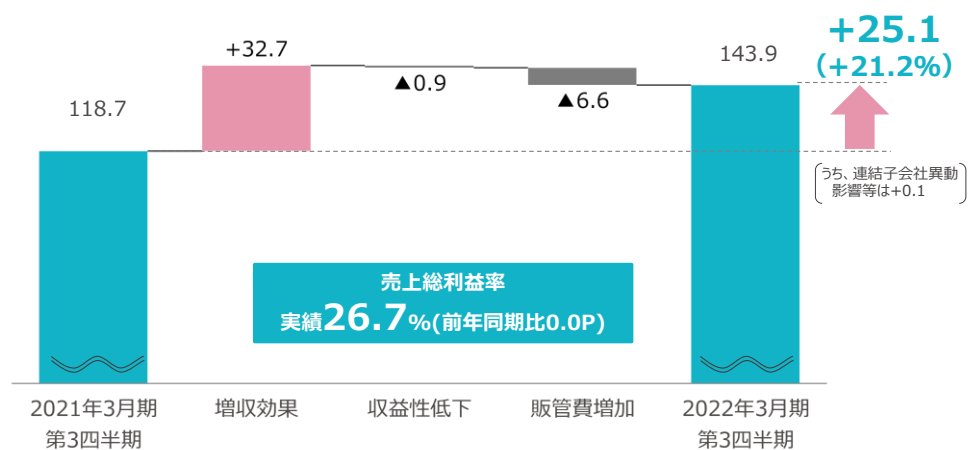
8

- ・8ページ・9ページは、第3四半期の3か月間の業績を示したものです。
- ・「サービスIT」の営業利益率は、不採算案件の発生と積極的な先行投資により低下しましたが、この要因を除けば前年同期を上回る水準です。
- ・「金融IT」の営業利益率の低下については、第3四半期累計でご説明したとおり不採算案件の発生やグループ会社のオフィス移転に伴う一時的な販管費増と一過性のものであり、問題はない状況だと考えています。
- ・また、「産業IT」の減収は、第3四半期累計でご説明した中央システムの連結除外と収益認識基準の影響であり、これを除いた実質ベースでは上期よりも増収率は高まっていますし、営業利益率は非常に良好です。

(参考) 2022年3月期第3四半期 (10-12月)
営業利益要因別増減分析 (前年同期比)



(億円)



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+5.6
(売上原価：+3.3 販管費+2.2)

✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
✓「構造転換を促進するための人財投資」
✓「先端技術獲得のための研究開発投資」

に関するコスト

働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前年同期比+10.8
(売上原価：+5.6 販管費+5.2)

<販管費増減>

連結子会社異動影響等	+3.1
オフィス改革	+5.2
ブランド関連	+0.5
経費削減・本社機能高度化	▲0.9
先行投資・その他	▲1.3
計	+6.6

© 2022 TIS Inc.

9

- ・続いて9ページです。
- ・第3四半期の売上総利益率は、前年同期と同水準となりましたが、前年同期の水準が高かったからでもあります。不採算案件の影響を除くと売上総利益率は改善しており、心配していません。

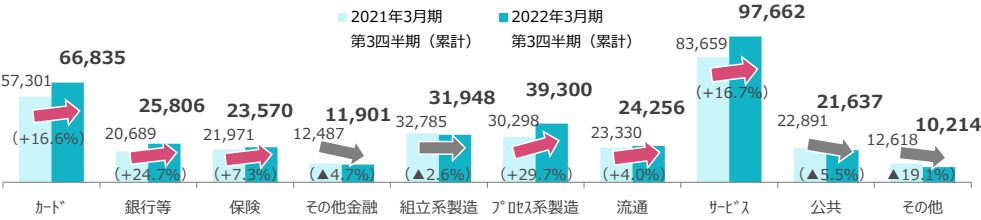
2022年3月期第3四半期（累計） 顧客業種別売上高



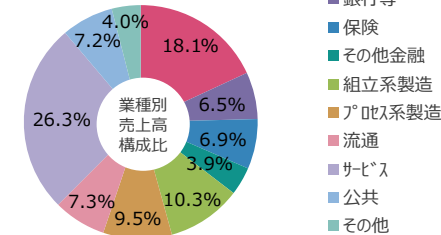
・引き続きカード、プロセス系製造が好調。銀行、サービスはM&A効果が寄与。

※当期より一部顧客の業種区分を見直しています。

(百万円)

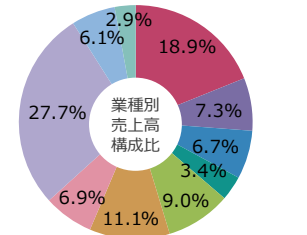


＜2021年3月期第3四半期（累計）＞



金融分野：35.3% 産業分野：53.5%
公共分野：7.2% その他：4.0%

＜2022年3月期第3四半期（累計）＞



金融分野：36.3% 産業分野：54.7%
公共分野：6.1% その他：2.9%

© 2022 TIS Inc.

10

- ・10ページをご覧ください。顧客業種別売上高の状況です。
- ・こちらも上期からトレンドは変わらず、根幹先顧客を中心に「カード」、「プロセス系製造」が好調に推移しました。また、「銀行」・「サービス」の増加にはMFECの業績反映が大きく寄与しています。

2022年3月期第3四半期（累計） 受注状況（全体）



・ソフトウェア開発が牽引し、受注高・受注残高とも前年同期比増加。

（百万円）	2021年3月期 第3四半期 （累計）	2022年3月期 第3四半期 （累計）	前年同期比	
当期受注高	296,096	326,491	+30,394	(+10.3%)
サービスIT	82,911	95,366	+12,454	(+15.0%)
BPO	24,055	25,620	+1,564	(+6.5%)
金融IT	70,230	80,400	+10,169	(+14.5%)
産業IT	118,898	125,104	+6,206	(+5.2%)
期末受注残高	119,907	122,397	+2,490	(+2.1%)
サービスIT	38,143	36,341	▲1,802	(▲4.7%)
金融IT	34,396	36,501	+2,105	(+6.1%)
産業IT	47,367	49,555	+2,187	(+4.6%)

- ・11ページからは受注状況についてのご説明です。
- ・まず、11ページは運用を含めた全体の受注状況、第3四半期累計です。
- ・受注高は前年同期比10.3%増の3,264億円、受注残高は同じく2.1%増の1,223億円と、受注高、受注残高ともに、「金融IT」、「産業IT」のソフトウェア開発が牽引して、力強く増加しました。
- ・なお、「サービスIT」の受注残高の減少については、次のページでご説明します。

2022年3月期第3四半期（累計） 受注状況（ソフトウェア開発）



- ・顧客の活発なIT投資意欲に大きな変化はなく、受注高、受注残高とも前年同期比増加。
- ・サービスITの期末受注残高は、主に開発受注の時期の波による影響で減少。

（百万円）	2021年3月期 第3四半期 （累計）	2022年3月期 第3四半期 （累計）	前年同期比	
当期受注高	162,020	188,342	+26,322	(+16.2%)
サービスIT	41,063	43,474	+2,410	(+5.9%)
金融IT	43,705	53,338	+9,632	(+22.0%)
産業IT	77,251	91,529	+14,278	(+18.5%)
期末受注残高	74,984	80,831	+5,846	(+7.8%)
サービスIT	22,145	18,294	▲3,850	(▲17.4%)
金融IT	22,311	26,011	+3,699	(+16.6%)
産業IT	30,528	36,525	+5,996	(+19.6%)

- ・12ページは「ソフトウェア開発」の受注状況についてです。
- ・受注高・受注残高は「金融IT」、「産業IT」の根幹先顧客を中心にしっかり積み上がりました。
- ・「サービスIT」の受注残高の減少は主にペイメント系の個別案件で、前年同期にまとまった受注が計上された影響によるものです。

(参考) 2022年3月期第3四半期(直近四半期) 受注状況



受注状況(全体)

(百万円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	前年同期比	
当期受注高	81,926	83,338	+1,411	(+1.7%)
サービスIT	19,581	19,060	▲520	(▲2.7%)
BPO	8,323	8,697	+374	(+4.5%)
金融IT	17,740	20,431	+2,690	(+15.2%)
産業IT	36,281	35,148	▲1,132	(▲3.1%)

受注状況(ソフトウェア開発)

(百万円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	前年同期比	
当期受注高	52,599	57,185	+4,586	(+8.7%)
サービスIT	13,612	11,373	▲2,239	(▲16.4%)
金融IT	13,127	17,699	+4,572	(+34.8%)
産業IT	25,859	28,113	+2,253	(+8.7%)

© 2022 TIS Inc.

13

- ・13ページは第3四半期の3か月間の受注状況です。
- ・「サービスIT」の受注高の減少は先ほどご説明したとおり、主に開発受注の時期の波によるものです。開発受注の時期にはどうしても波がありますが、顧客のIT投資意欲は変わらず活況であることから全体的なトレンドは変わらずとみています。
- ・「産業IT」の受注高の減少については、中央システム売却の影響が最も大きく、加えて収益認識基準の影響や付加価値が高いビジネスへの転換を進める中で収益性の低い販売案件が減少したことによるものであり、実勢ベースでは増加しています。
- ・以上が、第3四半期決算の実績に関する説明となります。

2022年3月期第3四半期（累計）業績概要

2022年3月期 業績見通し

参考資料

- ・続いて、2022年3月期の業績見通しについてご説明いたします。

2022年3月期 業績予想ハイライト



・顧客のデジタル変革需要への的確な対応による事業拡大に加え、前年度に子会社化した企業の業績が通期にわたって反映されることにより、業績伸長を見込む。
⇒2021年11月5日発表の計画値より変更なし。

(百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 修正計画	前期比	
売上高	448,383	480,000	+31,617	(+7.1%)
営業利益	45,748	52,000	+6,252	(+13.7%)
営業利益率	10.2%	10.8%	+0.6P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	27,692	38,000	+10,308	(+37.2%)
当期純利益率	6.2%	7.9%	+1.7P	—
1株当たり当期純利益 (円)	110.51	151.94	+41.43	(+37.5%)
ROE *1	10.8%	13.2%	+2.4P	—

*1 2022年3月期のROEは、試算値。

- ・15ページをご覧ください。
- ・2022年3月期の通期業績予想については、2021年11月5日に見直した数値から変更はありません。
- ・売上高は前期比7.1%増の4,800億円、営業利益は前期比13.7%増の520億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比37.2%増の380億円を計画しています。
- ・第3四半期累計期間での通期に対する進捗率では前年同期よりも良い状況にあり、通期計画に沿って確実に進捗している状況です。
- ・今後も状況を注視していく必要があると考えていますが、事業環境の見方は変わっておりません。引き続きIT投資が強まりを見せる分野において顧客ニーズを的確に捉えた事業展開など、諸施策を着実に推進する等、最後まで油断せず、通期計画の達成確度をより確かなものにしていきます。
- ・以上で、説明を終了させていただきます。

2022年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）



（百万円）		2021年3月期 実績	2022年3月期 修正計画	前期比	
サービスIT	売上高	136,946	156,000	+19,054	(+13.9%)
	営業利益	8,695	11,300	+2,605	(+30.0%)
	営業利益率	6.3%	7.2%	+0.9P	－
BPO	売上高	35,453	36,500	+1,047	(+3.0%)
	営業利益	3,105	3,400	+295	(+9.5%)
	営業利益率	8.8%	9.3%	+0.5P	－
金融IT	売上高	110,660	121,500	+10,840	(+9.8%)
	営業利益	15,320	16,700	+1,380	(+9.0%)
	営業利益率	13.8%	13.7%	▲0.1P	－
産業IT	売上高	194,414	194,500	+86	(+0.0%)
	営業利益	18,710	20,800	+2,090	(+11.2%)
	営業利益率	9.6%	10.7%	+1.1P	－

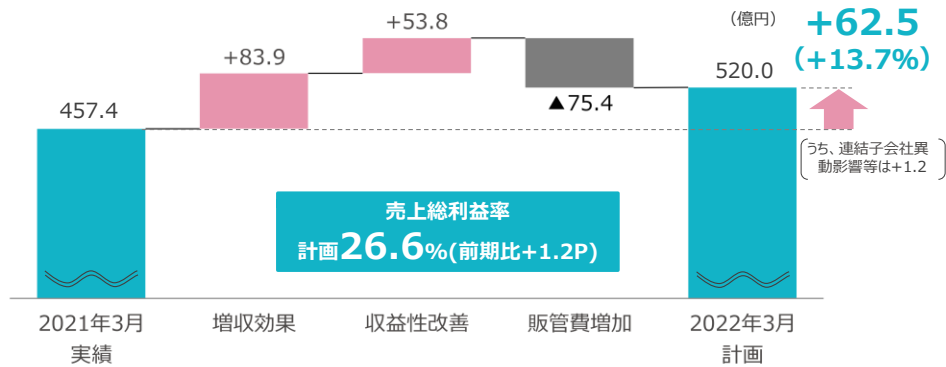
サービスIT：決済関連ビジネスのIT投資需要の取り込みのほか、前期のM&A効果の通期寄与により、増収増益の計画。
 BPO：アウトソーシング需要の堅調な推移と収益性改善の継続により、増収増益の計画。
 金融IT：根幹先顧客を中心としたIT投資の増加を受けて、増収増益の計画。
 産業IT：IT投資需要の回復を受けて、「収益認識に関する会計基準」の適用による減収影響を吸収し、増収増益の計画。

（説明省略）

2022年3月期 営業利益要因別増減分析（予想）



・高付加価値ビジネス推進や生産性向上等がオフィス改革コストを含めた積極的な成長投資に伴うコスト増を吸収し、営業増益を見込む。



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+25.0
(売上原価：+10.0 販管費+15.0)

✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
✓「構造転換を促進するための人財投資」
✓「先端技術獲得のための研究開発投資」

に関するコスト

働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前年同期比+35.0
(売上原価：+10.0 販管費+25.0)

＜販管費増減＞	
連結子会社異動影響等	+17.1
オフィス改革	+25.0
ブランド関連	+0.0
経費削減・本社機能高度化	▲5.0
先行投資・その他	+38.3
計	+75.4

© 2022 TIS Inc.

(説明省略)

2022年3月期第3四半期（累計）業績概要

2022年3月期 業績見通し

参考資料

（説明省略）

2022年3月期下期

業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）



（百万円）		2021年3月期 下期	2022年3月期 下期	前年同期比	
売上高		237,075	245,667	+8,592	(+3.6%)
営業利益		27,537	28,133	+596	(+2.2%)
営業利益率		11.6%	11.5%	▲0.1P	－
親会社株主に帰属する 四半期純利益		17,415	22,478	+5,063	(+29.1%)
四半期純利益率		7.3%	9.1%	+1.8P	－
主要セグメント別					
サービスIT	売上高	74,076	81,448	+7,372	(+10.0%)
	営業利益	6,122	6,492	+370	(+6.0%)
	営業利益率	8.3%	8.0%	▲0.3P	－
BPO	売上高	18,387	18,474	+87	(+0.5%)
	営業利益	1,795	1,864	+69	(+3.8%)
	営業利益率	9.8%	10.1%	+0.3P	－
金融IT	売上高	57,069	60,971	+3,902	(+6.8%)
	営業利益	8,645	8,877	+232	(+2.7%)
	営業利益率	15.1%	14.6%	▲0.5P	－
産業IT	売上高	102,940	100,822	▲2,118	(▲2.1%)
	営業利益	10,910	11,394	+484	(+4.4%)
	営業利益率	10.6%	11.3%	+0.7P	－

© 2022 TIS Inc.

*下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。

（説明省略）

2022年3月期第3四半期 プレスリリース/お知らせ①



発表日付	タイトル
2021年10月1日	TIS および連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2021年10月4日	インテック、AWSの環境構築から運用・監視までを行う「マネージドクラウドサービス on AWS」を提供開始
2021年10月6日	インテック、電子帳票システム「快速サーチャージGX」に改正電子帳簿保存法に対応した新機能を追加
2021年10月7日	TIS、ブロックチェーン技術を使った再生エネルギー由来の電気が有する環境価値の移転管理システムを開発
2021年10月11日	インテック、ローカル5Gなどマルチワイヤレス技術を活用した「ワイヤレスDX」ソリューションを展開開始
2021年10月13日	インテックと愛媛CATV、スマートシティ分野で協業開始
2021年10月15日	TIS、中国トップクラスのブロックチェーン技術企業「杭州趣鏈科技有限公司(Hangzhou Qulian Technology Co., Ltd.)」と資本・業務提携
2021年10月15日	年賀状廃止について
2021年10月18日	TIS、「Azure Virtual Desktop」における高い専門性が評価され、マイクロソフトの「Advanced Specialization」を取得
2021年10月19日	TIS、「SuperStream on Oracle データベースクラウド移行運用サービス」を提供開始
2021年10月27日	TIS、ヨガで企業の健康づくりをサポートする「ヨガDX（仮称）」の実証実験を健康経営優良法人認定企業のアルプス技研と開始
2021年10月28日	TIS、「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」の「スマートヘルスシティ」コーディネータ企業として大阪府内の市町村の社会課題解決をサポート
2021年10月28日	北日本銀行がインテックのCRM「F3（エフキューブ）」と連携したコラボレーションツール「POWER EGG」を採用
2021年10月29日	ネクスウェイ、ネットショップの売上金をVISA加盟店で使えるBASEカードに「本人確認BPOサービス」、 「本人確認・発送追跡サービス」を導入
2021年10月29日	TIS、「内製化支援推進AWSパートナー」プログラムに参加
2021年11月1日	インテック、ニューノーマル時代の新しい働き方を実現する「ワークスタイル変革支援サービス」の提供を開始
2021年11月1日	TIS、忘れたくない瞬間を声で記録する子育て応援アプリ「Tomory」サービスの実証実験を2021年12月より開始
2021年11月4日	TISと日本医師会医療情報管理機構の業務受託会社であるICIが、健康・医療情報の事業で業務提携
2021年11月8日	TIS、宿泊施設などオンライン予約のNo Show（ノーショー）※1リスクを可視化し、悪質な予約を予防する「Reservation Eye」を提供
2021年11月9日	インテック、「EDIアウトソーシングサービス(EINS/EDI-Hub Nex)」に改正電子帳簿保存法に対応した「EDIデータ保存オプション」を追加
2021年11月9日	和歌山県白浜町の施設で「自己主権型アイデンティティ」の実証実験を実施
2021年11月10日	TIS、大阪府池田市で開催されるイベント「BOTAFES'21」のオンライン体験をXR技術でサポート
2021年11月11日	インテック、非対面の営業活動を支援する新サービス「営業DXソリューション」を提供開始

© 2022 TIS Inc.

(説明省略)

2022年3月期第3四半期 プレスリリース/お知らせ②



発表日付	タイトル
2021年11月12日	TIS、ECサイト構築を支援するecbeingの脅威インテリジェンスプラットフォーム「DeCYFIR」導入を支援
2021年11月15日	インテック、マルチ環境リモート監視サービス（EINS/MCS MIRMO）にMicrosoft Azure監視機能を追加
2021年11月16日	TIS、東和薬品主催の「第3回 未来と健康のための高校生ビジネスコンテスト」共催
2021年11月19日	インテックとインターシステムズ、大阪市立大学医学部附属病院に病院情報システムのデータをHL7 FHIRに変換・蓄積する医療情報連携プラットフォームを構築
2021年11月19日	TIS、「請求書支払業務自動化サービス」に新機能を追加
2021年11月24日	ITサービスプロバイダーのTISとあらゆる社会課題を解決するソーシャル・アップデート・カンパニーUPDATER（旧:みんな電力）、脱炭素社会の実現に向けて資本・業務提携
2021年11月30日	TIS、「TIS MARKETING CANVAS」ユニファイドコマース実現に向けサービスラインナップを強化
2021年12月1日	TIS および連結子会社の人事異動のお知らせ
2021年12月3日	TISとインテック、企業のデータ連携を支援する「APIプラットフォーム構築サービス」を提供開始
2021年12月7日	クオリカ、製造業・建設業向けに『ウェアラブルデバイスを活用した現場DX導入キャンペーン』を開始
2021年12月9日	TIS、ささやま医療センターにクラウド型地域医療連携サービス「ヘルスケアパスポート」を導入
2021年12月10日	TISの「デジタルウォレットサービス」に新機能を追加し、Visa及びMastercard®のスマートフォン決済対応が可能に
2021年12月10日	慶應義塾大学SFC研究所、延岡市と 地方創生における研究開発に関する連携協力協定を締結
2021年12月13日	インテック、産休・育休からの復職を支援する専用ポータルサイトを活用した実証実験を開始
2021年12月13日	TIS、ブロックチェーン技術を用いたTrade Financeプラットフォームを提供するシンガポールのContour Pte. Ltd.と資本・業務提携
2021年12月14日	TIS、新生銀行およびアプラスのネオバンク・プラットフォーム「BANKIT®」にミニアプリ機能追加を支援
2021年12月14日	TIS、衛星データによる都市デジタルツインを活用したお祭りXR「デジタル花火大会」を福岡市を舞台に実証実験
2021年12月15日	アグレックス、令和3年度「テレワーク先駆者百選」に選出
2021年12月15日	TISとセカンドサイトアナリティカ、琉球銀行向けに決済データとAIを活用した「加盟店情報付加エンジン」のPoCを実施
2021年12月16日	TISの地域ウォレット「会津財布」、会津若松市民向け「新型コロナワクチン接種記録確認サービス」の提供プラットフォームとして採用
2021年12月16日	大和 IR「2021 年インターネット IR 表彰」最優秀賞を初受賞
2021年12月16日	インテック、4 年連続「東京都スポーツ推進企業」に認定
2021年12月20日	TISの健康活動サポートアプリ「ASTARI」、自治体と連携しスマートフォンで住民の健康管理をサポート
2021年12月22日	TISの経費精算クラウドサービス「Spendia」が電子帳簿保存法の令和3年度税制改正に対応

© 2022 TIS Inc.

（説明省略）

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

(説明省略)